先輩職員インタビュー

創意工夫を持って業務に取り組む

都市整備部都市計画課
三好　正人　平成29年度入職
一般事務職

道路下水道課（1年）→都市計画課（1年目）

●これまでの仕事、現在の仕事の内容について教えてください。また、入職からの1年間で感じたことを教えてください。

入庁後、最初は道路下水道課道路管理係（現：道路交通課管理係）に配属されました。市道の管理ということで陥没などの異常がある場合には出向いて対応したり、窓口にて幅員など市道に関わる情報をご案内したりするほか、主に市民の皆様の土地と市道の境界を決める境界確定業務を担当していました。測量図面を見ながら土地家屋調査士や測量士の方々とやり取りをするという今までの社会人経験ではやったことのない業務で不安でしたが、上司の方はもちろん、係を飛び越えて教えてくださる先輩方もいたおかげで無事に業務を遂行することができました。その後、現在の都市計画課都市計画係に異動し、建築や土地取引に関わる都市計画上のご案内をする窓口対応、都市部にありつつ守るべき農地（生産緑地地区）に係る事務手続きを行っています。国立の都市計画に携われるという事で非常にやりがいを感じています。

入職して１年経過し、市役所の仕事は想像以上に幅広く多岐にわたると感じています。部署が違えば別の会社に転職したような新しい刺激受けることができますし、新しい知識とやりがいを得ることができるので、色々な経験したいという自分にはありがたい職場だと思っています。

部署が変われば、転職と同じくらい業務内容も変わりますが、その分やりがいもあり、上司や周りの方々が心強い味方です。

●入職のきっかけ、前職について教えてください。

前職は国内の生命保険会社にて代理店営業を行っていました。職場の人や代理店の方々にも恵まれて楽しく仕事をしていましたが、営業という仕事柄、成果を追求しなければならないため、時として代理店への対応に差をつけなければならないことが多々ありました。こうした不公平感を感じることは民間企業で勤めている限りなくならないと思い、法令に基づき公平に仕事ができる公務員を志望するようになりました。

その中でも国立市を選んだきっかけは、大学通りの美しい景観に感動した事と市税の徴収率が全国１位（平成２５、２７年度）という事を知ったからです。市税の徴収率というとてもシビアな部分で全国１位を達成するという事は漫然と仕事をするのではなく、常に創意工夫を凝らしていかなければできない事であり、そういった風土が根付いている自治体なのかなと興味を持ちました。

国立市役所本庁舎。面積8.15平方キロメートルの小さなまちの中に出先職場として、児童館、保健センター、図書館、公民館などがあります。国立市は、高低差もあまりなく、まちの端から端まで自転車で30分程と移動がしやすいので、まちの様子が把握しやすいです。

●三好さんは転職で国立市役所に入職されていますが、前職で働いていた頃と比べて、職場環境や仕事のやりがいなど、変化したことはありますか。また前職での経験やスキルで活かしていることがあれば教えてください。

職場環境の変化として、ワークライフバランスがとても充実しました。仕事とプライベートのメリハリがついたことで日々の業務も効率的に進めることができ、好循環を生んでいます。

前職での営業の経験で、窓口対応においての立ち居振る舞い、言葉の選び方や言い回し等、非常に役に立っています。また、私自身ファイナンシャルプランナーの資格を保有しており、その中で不動産の知識が現在の業務に活きています。市役所の業務はとても幅広いので自身の経験が何かしら必ず活かせると思います。

部長、課長も含めて業務の打ち合わせ。

●三好さんは、職員向けの広報である庁内報の新入職員紹介の際、ご自身を表す四字熟語として「凡事徹底」をあげ、「平凡を非凡に務める」を信条に行動をしているとありました。仕事をする上で意識していることがあれば教えてください。また、今年度は異動があり、環境が新たになりましたが、今後の抱負などはありますか。

仕事をする上で意識していることは「当たり前のことを誰よりも徹底して行う事」です。報告・連絡・相談やビジネスマナーの徹底、時間厳守、意義や背景を考えながら業務を遂行する等、仕事をする上で当たり前のことを誰よりも徹底して行えるよう意識しています。その中でも特に意識しているのは「意義や背景を考えながら業務を遂行する事」です。民間とは違って大切な税金をいただいて仕事をしているので、その業務が市民の皆様にとって本当に必要なものかどうか、背景を踏まえた上で今までのやり方よりも効率的なやり方はないか等、民間で勤めている時以上に常に考えています。公務員は現状維持ではなく、創意工夫を持って業務に取り組むことがとても大事であると思っています。

今後の抱負は、今の業務をしっかり自分のものにして国立市に貢献する事と来年の昇任試験に合格して主任となり、今まで以上に業務の幅を広げていく事です。国立市の昇任制度は転職者も過去の職歴を在職年数に換算してすぐに受験できる仕組みなのでとてもやる気が出ます。

頼りになる係長と課長。業務は上司とよく相談しながら進めていきます。

庁内報
職員による職員向けの広報誌。気になる職員へのインタビューや注目の取組、おすすめスポットなどをユニークに紹介。現在の庁内報は職員からの提案で発行されるに至りました。国立市では、こうした職員提案により実現した制度や仕組みが他にも数多くあります。

●国立市の魅力はどんなところだと思いますか？

コンパクトな街の中に様々な要素（魅力）を持っている事だと思います。大学通りをはじめとする美しい景観や閑静な住宅街。中央線で都心まで約３０分でいけるアクセスの良さや国立インターから中央自動車道に乗れる便利さ。谷保地域から採れる新鮮で美味しい野菜。その他にもまだまだありますが、これらたくさんの要素（魅力）を踏まえて、他市とは違う街づくりに携われることも働く側としてとても魅力的です。

ある1日のスケジュール
8：20　出勤　机周り等の整理⇒8：30　始業　メール、庁内掲示板のチェック⇒9：00　生産緑地地区に関する決裁資料の作成⇒12：00　昼休み⇒13：00　窓口対応⇒13：30　係内ミーティング⇒14：45　東京都からの調査物の資料作成⇒17：15　退庁

多様性を力に変えること

政策経営部市長室
市川　綾子　平成28年入職
一般事務職

市長室（2年目）

●これまでの仕事、現在の仕事の内容

平成28年度に入庁し、市長室に配属となり現在3年目です。入庁時の「男女平等・人権・平和担当」の係から、昨年度に「平和・人権・ダイバーシティ推進係」へ係名称が変更となりました。所管している男女平等・人権・平和の３つは全く異なるようですが、地域で生活する人を大切に、誰にとっても暮らしやすいまちづくりをする上で基礎となる、とても大切な考えです。人々の暮らしを支えるという、自治体の根幹となるべき理念を様々な施策に変えていく仕事です。業務の内容は、条例や推進計画の策定及び進捗管理、相談対応、イベントの企画立案、関係機関との連絡調整など多岐にわたり、市内市外を問わず、とにかく様々な方とお会いする機会が多くあります。

●市川さんの仕事は、いろんな方とお話しをする機会や、イベントの企画運営も多いイメージがあり、特に昨年度は市制施行50周年記念式典や、それに伴った平和への取組のひとつである「くにたち文学賞」の創設、他市と合同で実施している男女共同参画推進共同研究会の実施、平成30年4月1日から施行された「国立市女性と男性及び多様な性の平等参画を推進する条例」に関連する業務など、本当に様々なことがあったかと思いますが、市川さんにとって入職してからの2年間はどのような日々でしたか。また、印象に残っていることなどがあれば教えてください。

入庁１年目に「国立市女性と男性及び多様な性の平等参画を推進する条例」の制定に携わりました。審議会委員や市民の皆様と共に内容を検討し、熱心に議論を交わし、時に悩みながらも、様々な方と同じ目標に向かって取り組むという経験は大変勉強になりました。条例は平成30年4月1日に施行され、この条例の周知のため「東京レインボープライド」に国立市として初めてブース出展を行いました。

また、昨年は国立市が市制施行50周年を迎えたことを記念して、「くにたち文学賞」の創設と、市オリジナルの平和組曲「祈る日」の作成を担当しました。市制の施行をできる限り多くの方と共に祝いたいと考え、「くにたち文学賞」では全国から“日常と平和”をテーマとした詩を募集し890作品が集まりました。事業を通じて、直接お会いできた方も、お会いできていない方もいらっしゃいますが、できるだけ多くの方の思いを受け止めて反映できるようにと考えていました。

国立市女性と男性及び多様な性の平等参画を推進する条例
性的指向と性自認の定義、性的指向・性自認等の公表の自由は個人の権利であること、複合差別に対する支援、教育関係者の責務、女性のエンパワーメントの推進等について表記しています。
男女平等参画の推進を図るための拠点施設として、平成30年5月に開設した国立駅前くにたち・こくぶんじ市民プラザ内に「くにたち男女平等参画ステーション」を開設しました。

東京レインボープライド2018へブース出展。他部署の職員の方々も応援にかけつけてくれました。

市制施行50周年
国立市は平成29年1月1日をもって、市制施行50周年を迎えました。大きな節目として、国立市のまちづくりの目標に向かって、大いに前進する年とするため、「くにたち文学賞」の創設や、市オリジナルの平和組曲「祈る日」の作成、市のプロモーション動画の作成、一橋大学・京都大学総長による講演会など様々な事業を実施しました。

市制施行50周年記念式典にて、くにたち平和組曲「祈る日」を合唱する市民の方々

●市長室に所属されていることから、市長や副市長など国立市のトップである理事者との距離も近く、直接関わることも多いかと思いますが、その中で感じたことや、意識の変化などがあれば教えてください。

１年目から大事な案件に関わるというプレッシャーもありましたが、理事者や職場の上司の懐がとても広く、小さな失敗を受け止めてくださったので、積極的に挑戦して様々な経験をさせていただくことができました。もちろん市長・副市長と職員とでは、立場や責任、所掌の範囲等は全く異なりますが、日々情熱を持って国立市のことを考えて仕事に取り組んでいる点は同じです。

まだまだ知識や経験が足りない部分もありますが、仕事をするなかでは、何事も志と熱意を持って取り組み、自分の思いを人に伝えていくという姿勢が大事だと感じています。今後は事業を形にしていくために裏付けとなる法制度などの知識の面を確立していきたいです。

川崎市の職員の方々と人権等に関するそれぞれの取り組みや方向性について意見交換。
市内市外を問わず、とにかく様々な方とお会いする機会が多くあります。

●上司や同僚など職場の雰囲気はどうですか。また、有給休暇や夏季休暇などを利用して仕事の合間に息抜きはできていますか。

上司や同僚は皆優しく、ワークライフバランスに理解があるので、とても休みを取りやすい職場です。私自身も有給休暇や夏季休暇を利用して旅行に行くなどして息抜きをしています。生活を充実させることが仕事の充実につながるため、メリハリをつけて仕事をするように心がけています。男性も積極的に育児休業や子どもの看護休暇を取得しているので、部署や立場の垣根を超えて、職員全体で互いに助けあいながら仕事をしていると感じます。

上司である係長と課長。上司は懐がとても広く、小さな失敗を受け止めてくださるので、積極的に挑戦して様々な経験をさせていただいています。

●<u>国立市の魅力はどんなところだと思いますか？</u>

文化と自然が豊かで、宝箱のようなとても素敵なまちです。コンパクトな市のため、早いうちに市役所業務の全体を見て仕事に取り組むことができるようになるので、やりがいが大きいです。

国立市は経験者採用も多く、様々な経歴をもった方がいます。ただ単に多様な人がいるだけでは衝突が起きてしまうので、自分とは異なる他の人の個性や長所を認めることが大切だと思います。国立市はこの多様性を活かしていくような職場風土があります。多様性の視点は市役所の仕事を行う上でとても大切です。仕事を通じて、様々な人と出会い、様々な人を知ることで、自分の力に変えていって欲しいと思います。

ある1日のスケジュール

8：20出勤、メールやニュース等のチェック　⇒　8：30事業企画書の作成　⇒　10：30新聞社等の取材対応　⇒　12：00昼食　⇒　13：00メールチェック　⇒　14：00庁内会議に出席　⇒　15：30イベント講師打合せ・資料作成　⇒　17：00明日の打合せ・メールチェック　⇒　17：15退庁

私のしごとは「想像」すること、「創造」すること

わたしたちの仕事は、その成果を売上のように数字にあらわせるものではありません。では、何を追求しているか？私は市民のみなさんの暮らしや気持ちに思いを馳せ、その願いを施策や制度等のかたちへと創造することだと考えています。行政職員の仕事は、イマジネーションが求められる、クリエイティブな仕事であると思います。

子ども家庭部児童青少年課保育・幼稚園係長
山﨑　瞳　平成26年度入職
一般事務職

児童青少年課（3年）→主任昇任　児童青少年課（1年）→係長昇任　児童青少年課保育・幼稚園係長（1年目）

●これまでの仕事　（転職のきっかけ）

大学で社会福祉(ソーシャルワーク)を学び、国立市へ入職する前は、社会福祉法人で相談職に従事していました。途中、社会人になってから改めて学校で学ぶ期間…というと響きは良いですが、悩みを抱え、寄り道をしながら、子ども家庭福祉分野の相談支援やしょうがい児の地域生活支援に携わらせていただいていました。

さまざまなお子さん、ご家庭と出会い、実践から多くの学びを与えていただきました。関係機関との連携や協働を図ることも不可欠で、市の担当課の方とご一緒させていただくことも多くありました。

このような取り組みを重ねる日々のなかで、行き詰まりを感じることがありました。相談をお受けしたお子さんやご家族の生活をサポートし、ご本人が力を発揮できるような仕組みを構築するためには、施策や制度が整備されていないと、ご本人たちへの働きかけや支援を展開するだけでは限界がありました。そうしたなかで、市民の生活を近くで感じ取り、施策や制度の過不足を捉え、ものごとを変革させていくことができるのは、市の職員であり、その仕事こそ、ソーシャルワークの最たるものだ、との思いに至りました。

●国立市入職前の仕事との比較

福祉の現場職員として民間で勤務していた時と、基本的な視点や仕事に対する思いはあまり変わらないかもしれません。それは、ソーシャルワークを学び、深めていくなかで、実践するフィールドは変わったものの、ソーシャルワークそのものを自分自身の基本軸としていることに変わりはな

いからです。
　ソーシャルワークとは、支援を要する限定された方のためだけではなく、地域に暮らす市民みなさんのより良い生活を探求し、実現に向けて取り組むことだと考えています。

●<u>現在の仕事の内容</u>
　入職してから保育・幼稚園係に所属しています。仕事の内容は、市内の保育園や幼稚園等、就学前のお子さんが通う園に関する運営業務や利用を希望する親御さんへの案内等、保育園・幼稚園に関する業務全般を担っています。業務内容は、保育園・幼稚園の運営に関する事務、保育等施設利用に関する窓口(電話)対応、保育所等への入所関連事務、保育所・幼稚園等に対する研修、幼児教育推進業務、新規保育施設や社会福祉事業団の設置準備事務等、多岐にわたっています。
　業務の幅が広いため、様々な経験をさせていただいており、徐々にではありますが、取り組みを深められるようになってきました。また、新たな事業も増えているので、いくらでも勉強することがでてきますので、やりがいを感じています。
　特に、待機児童の解消は社会問題として喫緊の課題でありますが、国立市では施設の整備のみならず、市内の子どもたちにより良い保育環境を提供することも大切にしてきました。国立市全体の保育の質を向上させるべく、当係で研修を主催したり、各園の先生方の交流を図るなど、保育現場と密接なかかわりを持ちながら、両輪として施策・制度を展開しています。

市内の保育園長が集まる園長会。子どもたちにより良い保育環境を提供するため、様々なことを話し合います。

迷ったときは周りの先輩方に相談し、アドバイスをしていただきます。

●今年度から係長職に昇任されましたが、後輩や部下の育成、配慮していることなどがあれば教えてください。

係全体の状況を俯瞰的に捉えるように心がけています。余裕を捻出するために優先順位を考えたり、逆算して仕事の手順を整えるなど、自分の業務に没頭するのみに陥らないようにしています。

わたしたちの仕事は、単独で完結するものではありません。今まで以上に初心に立ち返り、ひとつひとつが大切な糧になると思っています。実際に、上司や先輩だけでなく、後輩から気づきを与えてもらうことも数えきれないほどです。メンバーがそれぞれの強みや良さを発揮し、お互いを補いあいながら協力しあうことで、ひとつの係として成り立ちます。

慌ただしい部署ですが、だからこそ、ちょっとしたコミュニケーションを大切にしたいと思っています。仰々しいことではなく、コンビニで見つけた新商品のお菓子をみんなでつまんで味見したり、ふっと肩の力を抜いてリフレッシュするひとときが、場の雰囲気を和ませ、それが仕事の効率や精度を高めることにもなると思っています。

慌ただしい部署ですが、だからこそ、ちょっとしたコミュニケーションを大切にしたいと思っています。

上司や先輩だけでなく、後輩から気づきを与えてもらうことも数えきれないほどです。

●28年度、29年度参加していただいた女性リーダーシップワーキンググループの中で、どうしたらもっと働きやすくなるかや、今後のキャリアプランなど、しっかりとご自身の考えを話されていて、山崎さんは常に前向きに物事に向き合っている印象がありますが、普段仕事をする上で意識していることなどはありますか？

さまざまな課題に対して、問題点を抽出し、整理することは大切ですが、課題があることを批判したり、嘆いているだけでは、物事の解決には結びつきにくいと思っています。課題を受け止め、その先を目指して「じゃあ、どうするか？」を思案し、行動し、評価して、また軌道修正を重ねるプロセスこそが仕事の根幹だと考えています。

課題に取り組むことは苦労を伴いがちですが、「どうせやるなら、楽し

く」がモットーです。大変さのなかに面白さや奥深さを見出せると、色々なアイディアがうまれたり、共に課題を分かち合ってくれる人に出会えたりします。そうした嬉しい発見との相乗効果で、課題を課題としてではなく、受け止められることが増えると思っています。

女性リーダーシップワーキンググループ
女性リーダーシップワーキンググループとは、誰もが管理職を目指したくなるような働きやすく、やりがいのある職場づくりに向けて活動を行っている公募による女性職員グループです。参加者が部署を越えて集まり、「職場環境の整備」「ワークライフバランスの実現」「女性職員の意識改革、管理職を目指すための啓発」を三本柱に現在も検討を重ねています。

●国立市の魅力はどんなところだと思いますか？

○まちとしての魅力

コンパクトでありながら、さまざまな側面を有するまちだと思っています。平坦で自転車が走りやすく、散策するのにちょうどよく、時折、くにニャン（国立市観光まちづくり協会のゆるキャラ）もお散歩しています。ゆったりとした時間が流れているところが魅力ではないでしょうか。

○職場としての魅力

規模の小さな自治体なので、各人が担う業務は多くなるかもしれません。その分、業務自体も単なる処理作業ではなく、自らの意図を反映させながら深めていくことができますし、試行錯誤しながら業務を成し遂げる楽しさを味わう機会が多いと思います。また、職場の風土として、職員の意見に耳を傾け、積極的に取り入れていきますので、どのように仕事に向き合うかが、仕事の手応えや醍醐味として反映されやすいと思います。

一緒に働く上司や同僚の方々。メンバーがそれぞれの強みや良さを発揮し、お互いを補いあいながら協力し合っています。

ある1日のスケジュール

8：20　出勤。メールチェック。今日の自分の仕事の段取りを確認。⇒8：30　始業。朝礼にて係内の全体スケジュールの確認。⇒9：00　自席にて事務。課内の先輩係長に業務の相談をしたり、助言をいただく。係内の各種事業について情報共有や課題の整理の話し合いをおこなう。⇒12：00　昼食⇒13：30　会議。保育園長会に出席。⇒16：00　課長との打ち合わせ。新規事業関連の進捗状況を報告・相談し、今後の準備について指示を仰ぐ。⇒17：15　終業。翌日の業務の確認や段取りを整える。以前、勤務していた職場の先輩と近況報告を兼ねた食事会へ。

・経験をどう活かすか（活かせるか）は、自分次第。全く分野違いの知識や経験も、いつかどこかでつながるのが、市役所の仕事だと思います。
・「できない」から入るのではなく、どうしたら「できる」に近づけるのかという考え方を心がけています。

都市整備部富士見台地域まちづくり担当課長
中道　洋平　平成19年度入職
一般事務職

市民課（3年）→市民課（2年）主任昇任→主査（係長職）昇任　市民係主査（1ヶ月）
→社会教育・体育担当係長（1年11ヶ月）→公民館主査（2年）→指導支援係長（1年）
→課長昇任　富士見台地域まちづくり担当課長（2年目）

●<u>これまでの仕事、現在の仕事の内容</u>

市役所に入る前は、博物館で歴史系の学芸員をしていました。入職してからは、市民課で窓口業務を5年、そのあと教育委員会に異動し、生涯学習課で社会体育業務を2年、公民館で社会教育業務を2年、教育指導支援課で学校教育支援業務を1年経験し、昨年4月から、都市整備部でまちづくりの担当課長を務めています。学生時代や前職とのつながりという意味では、公民館以外は無縁のようですが、もともと地域の方が自分のまちに愛着を持てるような、まちづくりに関わりたいと考えていたので、目の前の扱う内容が変わっても、順応してこられたのだと思います。自分自身の価値観や物事の見方は、多少変化しましたが、基本的なスタンスは入職当時と変わりません。

現在の仕事は、市制施行50周年を迎えた国立市と、同時期に形成された富士見台地域において、これから先50年を見据えたプランニングを行う業務です。

併せて、エリア内に整備予定の、子育て機能を中心とした複合施設の検討に係る業務も行っています。課長と主任１名の２人体制ですが、まちづくりは市役所の全ての業務に関わる仕事なので、常に他部署の職員を巻き込んで、その協力も得ながら業務を進めています。

国立市富士見台地域まちづくりビジョン

市は、都営矢川北アパート建替え事業に伴う公共機能の検討および富士見台地域全体のまちづくりの方向性について検討するため、2014（平成26）年度に「国立富士見台地域まちづくり庁内検討会」を設置しました。

また、2015（平成27）年度には、富士見台地域のまちづくりに対する機運醸成のため、国立富士見台団地・創設50周年行事と関連付け『富士見台地域まちづくり勉強会「まち歩き散歩」』を開催し、これからのまちづくりで大切にしたいことを市民の皆様と意見交換しました。

以上の成果を踏まえ、市は2016（平成28）年度にたたき台としてビジョン（案）を作成し、2017（平成29）年度には、多くの市民の皆さまからビジョン（案）に対するご意見をいただくために、「国立市富士見台地域まちづくりビジョン（案）に関する懇談会～富士見台地域の魅力を共有し、まちの将来を考えよう！～」を開催しました。本ビジョンは、その成果を踏まえ策定されました。

懇談会、まち歩き散歩の様子

富士見台地域は、さまざまな祭りや催しを行う豊かな地域のコミュニティの存在、緑豊かな住環境や街路樹が配された幹線道路など、地域の個性を感じられる印象的な景観、共同住宅の建設などによる家族世帯の増加、駅前の個性ある商店街、子供が遊べる多くの公園の存在など、住宅市街地として多くの魅力を有しています。本ビジョンでは、まちづくりの方向性を示すだけでなく、富士見台地域の魅力とは何かを整理し、関係者が共有するためのいわば、まちの魅力ガイドとしても活用されることをねらいとしています。

また、まちづくりの方向性として一般的な「課題発見。解決型」の構成ではなく、既にある魅力を活かしながら、さらに伸ばす中で、課題の解決も同時に図っていく、いわば「魅力発見・創造型」の構成としています。

●これまで経験した仕事の中で印象に残っているものはありますか。

どれか一つを上げるのは難しいですが、これまで、庁内はもちろん、他の行政の方や、他機関の方、そして地域の方など、沢山の方と一緒に仕事をさせていただきました。部署や立場は変わっても、そうした人のつながりは生きていて、思いがけないところで助けられることが少なくありません。昨年勤続10年を迎えましたが、改めて、人に恵まれていたと思います。市役所の業務は一人で完結させるものはありませんから、これからも職場内はもちろん、いろいろな方とのつながりを大切にしていきたいと思います。

●中道さんは国立市の職員であると同時に、国立市民でもありますが、国立のまちや人の印象、普段暮らしていて、また仕事をしていて感じることや意識していることなどがあれば教えてください。

よく言われるように、国立は8.15㎢のコンパクトシティーです。良い意味で、人と人との距離が近いまちだと感じています。私も妻も市外から来た人間ですが、10年経ち、知らないまちで、沢山の友人や知り合いができました。どこかに出かけると、大抵誰かに会って、ほっとした気持ちになって帰ってきます。外から来た人間でも、自然と地域に溶け込めるのがこのまちの魅力です。それと、うちには5歳の息子が1人居ますが、彼だけは生まれも育ちも国立になる予定です。日々仕事をする中で、子どもの未来とまちの未来を重ね合わせることがよくあります。自分も家族も暮らすまちの将来について、仕事として関われるのは幸運なことです。緊張感を持って務めていきたいと思います。

●管理職の仕事、管理職として実感すること

会議や打ち合わせも増え、とにかく考える量が多くなりました。責任が重くなったのは、立場上当然のことです。ただ、違う見方をすれば、管理職の立場だからこそできることや、仕事の幅も広がったと感じています。庁内には柔軟な考え方の管理職が多く、同年代の管理職も増えてきました。まちづくりは、他課との連携が欠かせませんが、風通しの良い職場環境なので、いろいろな部署の力を十二分に活用しながら、事業を進めています。もちろん自分自身も、常にオープンな姿勢を心がけています。

とても優秀で心強い部下と。立場を超えてお互いサポートし合っています。また、まちづくりは市役所の全ての業務に関わる仕事なので、常に他部署の職員を巻き込んで、その協力も得ながら業務を進めています。

●中道さんはイクメンと評判ですが、昨年からは管理職となり、仕事の幅や責任も多岐に渡ると思います。仕事とプライベートのバランスはどのようにとられていますか。

妻は他市で保育士をしています。彼女と比べて職場も近いので、基本的に家事と保育園の送り迎えは自分がやります。家事は適度にサボりながらやっているので苦になりませんし、子どもの送り迎えは今しかできないので、自分にとっても貴重な時間です。

管理職になってからは、確かに仕事の重みも責任感もぐんと増しました。ただ、妻の育休後、必然的に残業はできなくなりましたから、それに合わせて働き方を変えざるを得ませんでした。これまで以上に時間を意識するようになったのと、会議前に資料を読み込んでおくなど、できる限り事前の準備を欠かさないようにしています。とても優秀で心強い部下がいるので、常にコミュニケーションを取り合い、その場その場ではなく、業務全体のゴールと進捗を意識するようにしています。彼も同じく子育て中なので、立場を超えてお互いサポートし合っています。自分はもともと仕事とプライベートの切り替えが下手な人間です。定時で退庁しても、休日でも頭のどこかで業務のことを考えてしまいます。ただ、市内在住という利点も活かして、地域行事やイベントには、家族で行くようにしています。もちろん仕事ではなく、誰より楽しむつもりで参加しています。結果、子どもも喜ぶし、いろんな人とつながることができます。切り替えが下手な分、プライベートと仕事をうまく融合させてしまうのが、自分なりのバランスのとり方でしょうか。

女性はもちろん男性の子育ても応援しています！

- 先輩職員がすでに複数名取得！男性の育児休業、育児部分休業
- 配偶者の出産にあたり取得できる出産支援休暇、育児参加休暇
- 子の看護や予防接種のために取得できる子どもの看護休暇は、中学校就学前まで取得可能

ある1日のスケジュール

8：15　保育園送り後出勤。予定確認とメール等チェック。⇒8：30　始業。課内打ち合わせ・会議資料等の確認。⇒10：00　コンサルタントとの協議。市民ワークショップの企画について。⇒12：00　昼食⇒13：00　出張。大学機関との共同研究に係る学識関係者との協議。⇒17：00　帰庁。上司への進捗報告と明日の予定確認。⇒17：15　終業。保育園迎え、帰宅後、夕食準備。

国立市役所ホームページ（http://www.city.kunitachi.tokyo.jp/sub3/index.html）でも過去の先輩職員インタビューや国立市について紹介しています。